保育　遊びこむ子どもを育てる

1　保育における子どもに備えさせたい資質・能力

幼児期の学びは，自ら身近な環境に興味・関心をもって関わり，発達に必要な経験を得ることで豊かになっていく。本園では，遊びをさらに深い学びにつなげていくために，「遊びこむ子どもを育てる」ことを研究テーマに設定した。

中教審・幼児教育部会での審議まとめ，また附属学校園で独自に設定した５つの資質・能力をふまえ，「遊びこむ子どもの姿」について検討した。案として出てきた姿を整理して，**図１**にあげた３つの姿を設定した。これらは必ずしも順番性をもたず，遊びの過程において，螺旋のように，また行ったり来たりしながら発揮し，育まれていくものであると捉えている。

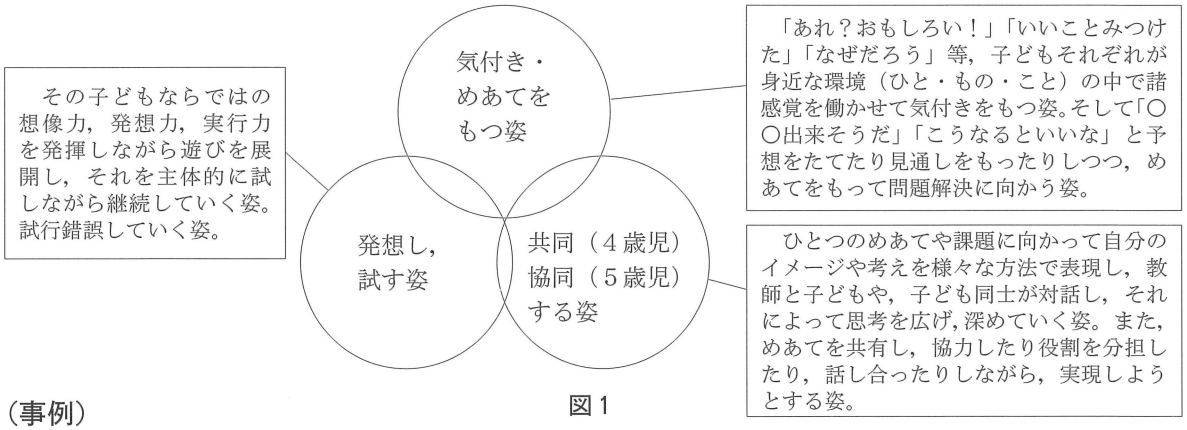

図１

（事例）

５月頃から藤棚の下でレストランごっこをしたり藤の葉っぱを遊びに取り入れたりしながら遊んでいた。

●気付き・めあてをもつ姿

６月頃藤棚の実に気が付き，「何だあれー！」と言いながらみんなで藤の実を見ていた。子どもたちが藤の実にどのように興味をもつのかと様子を見守っていると，「あれ，採りたいね。」と友だちと話す姿があった。「あの実を採ろうとしているんだね。先生も欲しいなー。」と子どもたちの願いを明確に出来るよう声をかけた。その後子どもたちは「どうしてもあの実を採りたい」という願いを強くもち，自力で採りはじめた。

●発想し，試す姿

近くにあった虫捕り網の棒の先を使い実を採ろうとしていたが，なかなか採れず困っていた。教師が「先生も採りたいな。先生は他の方法を考えてみようかな。」と他の方法や道具に気付けるよう，視点を変えてみるための声をかけた。すると，子どもたちは様々な方法で藤の実を採ろうと試みはじめた。

ある子どもは虫取り網の棒の先を触りながら，「ここが滑るから…本当は引っかけたいのに。」と言い，「あっ傘だ。傘だと曲がっているから引っかけられる。傘持って来る。」と，傘を取りに行った。既知のものを別の使い方をする，という自分の発想を試そうとしている姿が見られた。教師は「それは良い考えだね！やってみたいね。」と共感しながら価値付けることで，自分の発想を試してみようとする姿につなげていった。

●共同・協同する姿

友だちが採れなくて困っていると，「ここを持っといてあげるから，もっと上の方に引っかけてごらん。」と棒を一緒に持ったり，「危ないよ。」と言いながら友だちの体を支えたりしていた。自然と友だちに手を貸し，関わり合う姿が見られていた。そしていざ藤の実が採れた時には，「やったー。ゲット！」「ね，採れたでしょ！良かったね。」とお互いに嬉しさを共有していた。教師は，友だちとやりとりをしながら，力を合わせている姿を十分に褒めたいと考え，「〇〇さんと力を合わせたから採れたんだね。これが協力するってことなんだよ。」と声をかけた。実を採れたという結果だけを褒めるのではなく，採るまでの過程を十分に褒め，価値付けることで支えた。このような願いを共有しながら協力する体験を積み重ねていくことにより、協同していく力を培っていく。

採った藤の実で遊んでいくうちに色や硬さの変化に気付き，模様や音を楽しむ，「ふわふわしていて気持ちいいね。毛を取ったらつるつるになるかな。」と感触を感じるなどしながら遊ぶ様子につながっていった。

年長　７期（６月）　藤の実にかかわる遊びの事例

2 「資質・能力」を育むために

(1) 教師の援助

子どもの発達や特性，何に興味関心を向けているのか，何を願っているのかめあてや意図等，みせる姿や心情・意欲等を見守りながら探っていき，見取っていく。その上で，その期や活動のねらい，また本園で提唱する「資質・能力」につながっていくように，効果的なタイミングで援助を行うことが大切である。その援助の要点として「共感する，見取る，見守る」「意味付け」「価値付け」「力付け」を考えた（**図2**）。

・共感する，見取る，見守る

意味付け・価値付け・力付けの土台として，期における発達やねらいをふまえ，子どもの願いや遊びが広がり深まる可能性を探り，援助しつつ子どもが遊びこむのを見届ける姿勢を基本とする。

例）
- 一人一人の「経験の引き出し」を探り，見えている姿の基となる経験内容を把握しようと努める。
- より成長につながる深い学びを生み出すには，何を意味付け，価値付け，力付けるべきかを，見守る中で熟慮し，見定める。
- 個々の遊びの場を離れる時に，子どもに何と声をかけ，何を伝えるのかを意識することで，教師自身の子どもや遊びを見取る姿勢・力量を高めていく。

○意味付け

子どもの気付きを引き出し，願いやめあてが子どもの中に意識化されるようにする。

例）
- 藤の実を採るのに，どんな方法を考えているの？
  ＜問いかけ＞
- 水を最後まで流そうとしているんだね。
  ＜めあての明確化＞

☆価値付け

遊びの内容や子どもの姿から教育的価値を見いだし，考え，表現し，工夫している内容等を具体的な言葉で表し，子ども自身がその価値に気付くことができるようにする。

例）
- 大型積み木を使って高いところに積むんだ。よく考えたね。
  ＜承認（過程をほめる）＞
- 築山のてっぺんに水がたくさんたまったね。みんなでしたからできたんだね。
  ＜支持・協同促し＞

⇒力付け

一人一人の遊びの中で経験している内容をとらえ，今の子どもの活動が追求に向かい，また意味のある経験につながるよう，共に歩んだり，後押しをしたり，励ましたり，考えるヒントを与えたりする。

例）
- 新しい考えだね，次はどんな団子ができるのか楽しみだね。
  ＜共に歩む＞
- どうやったらうまくできたの？
  ＜振り返り促し＞
- それを使って素敵な物ができそうだね！
  ＜次への意識化＞
- おもしろい形だね、どうしたらこんなふうにできるんだろう。
  ＜次の課題へゆさぶり＞

図2

(2) 環境の構成

園内の環境が子どもにとって，また遊びにとって意味のあるものになるのかをその都度見直し，より資質・能力につながる教育的価値のあるものに構成し直していく。

（文責　金﨑　沙耶香）